

傳所載不暇枚舉典藥寮即隋唐大醫署有典藥頭秦漢以來太醫令之職有助有允有屬有醫博士女醫博士鍼博士侍

醫權侍醫醫師醫疾令曰醫師十人掌療諸疾病及診候五位以上疾患者遣醫師療之醫師得業生施藥院使及主典史生等職詳見職原鈔天

平寶字二年詔使醫生講太素甲乙脈經本草鍼生講素問鍼經明堂脈訣見類聚國史延喜式曰講醫經太

素經限四百六十日新修本草三百十日小品三百十日明堂二百日八十一難經六十日凡太素經准

大經新修本草准中經小品明堂八十一難經准小經略天曆元年六月詔課試醫道學生見扶桑略記中

世海內麻沸聲名文物壞亂極矣不特醫政之弗復古也東山氏已還醫者無官名咸剪落著直祿略

叙法印法眼法橋等位略其實僧員而不隸僧綱其所起未詳自何時蓋在正慶建武之間乎略

近世間有不剃髮稱爲儒者者然而不剪落則不得爲官醫也

〔奇魂〕醫藥名義并醫風變化附本道辨

さて此道に精しかりし人はいと古くは詳ならず藤原平城宮の比には吉田連宜御立連吳明城

上連眞立尾張福子呪禁には韓國連廣足今京となりては出雲の宿禰廣貞阿部朝臣眞直紀宿禰

福吉紀朝臣夏井物部朝臣廣泉大神朝臣庸主菅原朝臣峯嗣當麻真人鴨繼和氣朝臣廣世丹波宿

禰康頼主等此他にも多かりとおほしきを後衰へて近昔は僅に梶原性全細川勝元等のみ聞え

たり其中に廣世朝臣康頼宿禰主は諸經に博く殊に此道に秀られて其著されたる書多かりて

其名世に高く其子孫各其道を世々にせられたればをりには他家よりも出る事も有しかど後

世は最稀にて大方和氣丹波家に極れるが如く成にたり令の制は五位の官なれど重く用玉ふ

に依て四位にも三位にも叙られて今世に至まで猶然ぞ有けるかれば其家に時々勝れて精

き人も多かる中に丹波雅忠主勝れたれば世に倭扁鵲と稱へたりしを外國まで聞傳けん高麗

國の後病たるに其王大宰府まで請におこせしかども其狀の禮なかりければ御許なくて返牒

に牒得彼省牒傳云々抑牒狀之詞頗賤故事改處分而曰聖旨非蕃王可稱宅退陬而跨上邦誠彝倫